

# 卯辰山麓地区石造物マップ

※墓所は故人が永遠の眠りについていない場所です。必ずお寺の許可を取りましょう。



No.	名称	所在
1	題目塔	
2	播中一結	静明寺 P6
3	佐々木日向守の墓	
4	筆硯の墓	
5	菊池大学の墓	
6	神駒両親の墓	
7	「南無大悲観世音菩薩」の碑	
8	献燈一对	観音院 L6
9	関孝和の墓	
10	綿津野政右衛門の墓	
11	松田東英の墓	
12	七福地藏	寿経寺 K5
13	御神燈	宇多須神社 J5
14	御神燈	
15	奉納燈籠	
16	富田重政の墓	
17	富田重康の墓	慈雲寺 I5
18	富田重政次女の墓	
19	奥村栄政娘の墓	
20	富田景周の墓	
21	石幢	宗龍寺 I7
22	北辰星	
23	天神供養塔	西養寺 H7
24	高沢忠順の墓	
25	今枝家の墓所	
26	燈籠	来教寺 G5
27	百塚塚	玄門寺 G4
28	義賢名号塔	
29	「開運辨財天尊」の碑	
30	道嗣屋彦兵衛の墓	智願寺 G7
31	船屋弥兵衛の墓	
32	越野佐助の墓	
33	初代中村歌右衛門の墓	真成寺 G7
34	五十嵐道甫の墓	
35	宮崎友禅斎の墓	龍国寺 F8
36	題目塔	妙正寺 F6
37	大黒天賣前燈籠一对	妙国寺 F6
38	宝生紫雲の墓	
39	諸徳兼之進の墓	全性寺 E6
40	波吉八音の墓	妙泰寺 E5
41	理松院の墓	妙興寺 E5
42	上木家の墓所	蓮覚寺 E5
43	河野四郎右衛門の墓	妙興寺 E6
44	大橋左衛門の墓	
45	山聖宗室の墓	月心寺 E7
46	題目塔	本法寺 D6
47	徳本名号塔	
48	燈籠一对	心蓮社 D6
49	手水鉢	
50	立花北枝の墓	
51	献燈	光覚寺 C7
52	富士大権現燈籠	
53	願屋厄災燈籠	小坂神社 C10
54	寄進燈籠一对	
55	御神燈一对	
A	狛犬	観音院 L6
B	狛鹿	小坂神社 C10
C	観音菩薩	観音院 L6
D	題目塔	円光寺 G5
E	手水鉢	松尾神社 I7
F	燈籠	西養寺 H7
G	狛犬	豊国神社 N10
H	江戸三度	本蔵寺 G6
I	不動明王及童子	宗龍寺 I7
J	地藏菩薩	月心寺 E7
K	観音菩薩	妙興寺 E7
L	石仏(?)	円長寺 J2

石が語る金沢の歴史と文化

## 卯辰山麓地区石造物マップ



石が語る金沢の歴史と文化



富田家墓所 (慈雲寺)



狛犬 (観音院)

**協働のまちづくり チャレンジ事業 (金沢市委託事業)**

本書は、平成24年度協働のまちづくりチャレンジ事業として金沢文化財ボランティアうめばちの会が金沢市から委託を受けて市と協働で作成したものである。

**金沢市 金沢文化財ボランティアうめばちの会**

金沢市上安原南60番地 金沢市埋蔵文化財センター内  
TEL 076-269-2451 FAX 076-269-2452

2013.3発行

**卯辰山麓地区**には標高約140mの低丘陵と谷筋が織りなす入り組んだ地形からうまれた坂道や長い階段、迷路のような小路が網の目状にはりめぐらされており、四季折々の変化に富んだ散策を楽しむことができる。

金沢には城を囲むように卯辰山麓寺院群・小立野寺院群・寺町寺院群の三つの寺院群がある。卯辰山麓に寺院が集められた直接的契機となったのは17世紀初めから中頃に渡る城下町建設によるとされている。また、卯辰山が金沢城から見て鬼門（北東）に当たったため、加賀藩はここに寺社を集めて厄除けを行ったともいわれ、現在、50もの寺社が散在している。



観音菩薩群 安永8年銘 (観音院)

本書は卯辰山麓地区にある数多くの石造物の中から藩政期に由来のある55点を選択して紹介したものである。寺社の境内や墓地に残されている石塔・燈籠・石碑などの石造物から金沢の歴史と文化を学習する一助になれば幸いである。

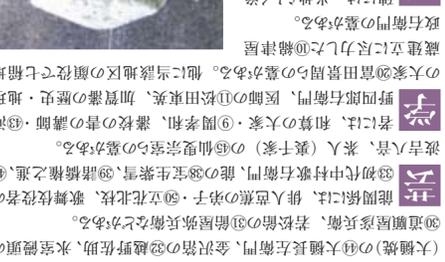
**石** 卯辰山麓地区には美しい石造物が数多くあり、その中には、石塔、燈籠、石碑など、藩政期に由来するものが多い。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。



観音菩薩 (妙國寺) 不動明王及童子 (宗龍寺)

**石** 卯辰山麓地区には美しい石造物が数多くあり、その中には、石塔、燈籠、石碑など、藩政期に由来するものが多い。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。

**石** 卯辰山麓地区には美しい石造物が数多くあり、その中には、石塔、燈籠、石碑など、藩政期に由来するものが多い。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。



狛犬 明和9年銘 (豊国神社)

**石** 卯辰山麓地区には美しい石造物が数多くあり、その中には、石塔、燈籠、石碑など、藩政期に由来するものが多い。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。

**石** 卯辰山麓地区には美しい石造物が数多くあり、その中には、石塔、燈籠、石碑など、藩政期に由来するものが多い。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。



手水鉢 天保5年銘 (松尾神社)

**石** 卯辰山麓地区には美しい石造物が数多くあり、その中には、石塔、燈籠、石碑など、藩政期に由来するものが多い。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。

55点で、燈籠や供養塔類の墓も、次いで燈籠、石碑等がある。石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。加工した石やそれらを組み合わせた石造物は、石の性質や加工の容易な特性をもつ石を素材にした造形物である。

# 石が語る金沢の歴史と文化

## 卯辰山山麓地区

### 石造物マップ

<b>猷燈一对</b> <span></span>
<span></span>
所在：観音院
種類：燈籠
建立年：文久2（1862）
石材：赤戸室
高さ：157cm
見学：可

津幡は北国街道と能登往來の分岐点にあり、寛永頃に宿駅として整備され、交通の要衝として繁栄。正面に「津幡驛」左面に「猷燈」右面に「文久二年(1862)」と刻むが、観音院に建立の由来について詳細は不明。

<b>関孝和の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：観音院
種類：供養碑
建立年：明治4（1857）
石材：凝灰岩
高さ：166cm
見学：可

1640?～1708.和算学者。幼少の時から算術に優れ算聖といわれた。武士、町人を問わず孝和に師事する者が多かった。安政4年、孝和150回忌に町家連中が建立した石碑で、碑文は漢文体で略歴などを記す。

<b>綿津野政右衛門の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：観音院
種類：供養碑
建立年：安政4（1869）
石材：花崗岩
高さ：166cm
見学：可

1803～1865.卯辰茶屋町の綿津屋忠藏の婿養子で、幕末の茶屋経営や芝居興行で知られた俠客。観音院に三重塔を再建、安政5年(1858)泣き一揆の七福地蔵を建立。慶応元年(1865)62才で歿。石碑は「京三度」の世話人たちが建立。

<b>松田東英の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：観音院
種類：墓塔
建立年：文政7（1836）
石材：砂岩
高さ：134cm
見学：可

1788～1847.現小矢部市生まれ。本名は説、芹齋と号す。幼少時から読書を好み医術を習い、金沢の医師松田家の養子となる。江戸・長崎で学び、医業を継ぐ。天保年間に加賀藩で最初に顕微鏡や望遠鏡を考案。東英48歳の時に墓を逆修した。

<b>七福地蔵</b> <span></span>
<span></span>
所在：寿経寺
種類：石仏
建立年：安政5（1858）
石材：凝灰岩
高さ：103～108cm
見学：堂外から見学可

安政5年(1858)、米価高騰に苦しむ民衆が、卯辰山頂上の金沢城に向かって大声で直訴した「泣き一揆」の首謀者として、当社は金沢五社(他に、小坂神社、神明宮、椿原神社、安江八幡宮)の一つに数えられ、藩主前田家より特別の待遇を受けた。

<b>御神燈</b> <span></span>
<span></span>
所在：宇多須神社
種類：燈籠
建立年：文政13（1830）
石材：青戸室
高さ：180cm
見学：竹垣外部から見学可

上段玉垣石手前にある本神社最古の燈籠。銘文に「御神燈 文政十三寅歲九月吉日」と刻む。当社は金沢五社(他に、小坂神社、神明宮、椿原神社、安江八幡宮)の一つに数えられ、藩主前田家より特別の待遇を受けた。

<b>御神燈</b> <span></span>
<span></span>
所在：宇多須神社
種類：燈籠
建立年：文久2（1862）
石材：赤戸室
高さ：180cm
見学：可

拝殿左側にある燈籠。「文久三年壬戌孟春 原屋□兵衛、笠屋清次郎/笠島高/笠島みつ」(火袋は後補で坪野石)と刻む。

<b>奉納燈籠</b> <span></span>
<span></span>
所在：宇多須神社
種類：燈籠
建立年：文久3（1863）
石材：赤戸室
高さ：152cm
見学：可

本神社で最大の高さを誇る燈籠。「奉納吉日□講 文久三癸亥歲九月吉日 清輝燈」とあり、基礎には世話方卯辰平兵衛他5人の名を刻む。

<b>富田重政の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：慈雲寺
種類：石廟
建立年：寛永2（1625）
石材：笏谷石
高さ：188cm
見学：要許可

1564～1625。「重政」は朝倉家家臣山崎家から富田家に嫁入し、前田利家から3代の藩主に仕える。金森合戦などで功を上げ、父景政から富田流を授けられ、「名人越後」と称賞された。寛永2年4月62歳歿。人持組13,700石。

<b>富田重康の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：慈雲寺
種類：石廟
建立年：寛永20（1643）
石材：笏谷石・砂岩
高さ：152cm
見学：要許可

1601～1643。「重康」は重政次男、父重政の後を継ぎ、家次風の剣法に専念した。晩年中風の病にかかったが、剣を待つと常人を圧倒したため、時に人恐れて「中風越後」と呼んだ。寛永20年42歳歿。人持組頭1万石。

<b>富田重政次女の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：慈雲寺
種類：石廟
建立年：寛永17（1640）
石材：笏谷石
高さ：173cm
見学：要許可

?～1640。「慈照院」は慶長11年(1606)奥村宗家三代栄政に嫁ぐ。4男1女(栄清・栄従・栄張・栄相・女)を授かる。石廟には天女を陽刻、屋根の棟に家紋がみえ、内部には蓮の絵が描かれている(重政の墓⑩にも蓮の絵がある)。

<b>奥村栄政娘の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：慈雲寺
種類：石廟
建立年：正保2（1645）
石材：笏谷石
高さ：220cm
見学：要許可

?～1645。「照光院」は奥村栄政の娘で、母は富田重政の次女。堀七郎兵衛秀治に嫁いだ。石廟には天女を陽刻、屋根の棟に家紋がみえ、内部には蓮の絵が描かれている。

<b>富田景周の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：慈雲寺
種類：墓塔
建立年：文政11（1828）
石材：笏谷石
高さ：181cm
見学：要許可

<b>石幢</b> <span></span>
<span></span>
所在：宗龍寺
種類：石幢
建立年：天保2（1831）
石材：笏谷石
高さ：123cm
見学：可

角柱の各面上部に「六地藏」とされる地藏菩薩立像が彫られている。「大乗妙典一石一字」、「天保二年」、「為有縁無縁」の銘を刻む。2つの面に、当時の民衆の願いを銘刻。以前は山門近くに置かれていた。

<b>北辰星</b> <span></span>
<span></span>
所在：宗龍寺
種類：石祠
建立年：天明（1815）
石材：笏谷石
高さ：85cm
見学：可

石祠扉に「波に亀と水泡」と刻む。中に北辰星と陰刻した八角石柱上に半球石を乗せる。北極星や北斗七星を神格化し、亀や玄武に乗る像がある。当時の民衆の願いを銘刻。除災・福寿・国土擁護等成せるとある。

<b>天神供養塔</b> <span></span>
<span></span>
所在：西養寺
種類：石塔
建立年：不明
石材：赤戸室
高さ：500cm
*7代当主
石材：赤戸室
高さ：139cm
見学：可

宝篋印塔の塔身上に燈籠の中央部を乗せた形。笠の下に天神様を祀る。宝篋印塔は元々宝篋印陀羅尼經を取め、長寿、福德、減罪を成せるという。特異な変形塔は神仏混淆の時代の姿を見る。

<b>高沢忠順の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：西養寺
種類：墓塔
建立年：不明
石材：凝灰岩
高さ：186cm
*7代当主
石材：赤戸室
高さ：139cm
見学：可

1731～1799.高沢家は、元々横山氏に仕えていたが、後に三代藩主利常に450石で仕える。忠順は能州郡奉行・改作奉行などを務め、藩主利常の改作法に心酔して地方行政に能力を発揮し、「改作日記」を遺した。

<b>今枝家の墓所</b> <span></span>
<span></span>
所在：西養寺
種類：墓塔
建立年：天明12（1815）
*7代当主
石材：赤戸室
高さ：139cm
見学：可

今枝家は人持組筆頭・禄高14,000石。加賀藩家老職を務める。墓石は七代当主とその家族のもの。以前は土徳頭の上に墓石を置いたといわれるが、現在は失われ、二列に整備。野田山墓地にも今枝家の墓所がある。

<b>燈籠</b> <span></span>
<span></span>
所在：来教寺
種類：燈籠
建立年：文化4（1815）
石材：赤戸室
高さ：560cm
見学：可

当寺は近江より金比羅大権現、山城国鞍馬山から毘沙門天を勧請。伝聞では、藩政期、藩の許可を得て富くじを発行し、当選すると、翌春、四国讃岐の金比羅さんに代参した。この燈籠はその時の余剰金や寄付金などで建立されたと伝わる。

<b>百度塚</b> <span></span>
<span></span>
所在：来教寺
種類：標石
建立年：文化9（1812）
石材：笏谷石
高さ：125cm
見学：可

百度参りする人々の目標として据えられた石標を「お百度石」と称する。当寺の十九世瑞雲が、寺の本堂の内陣と外陣の間に格子戸を設け、夜のお参りを可能にした。距離は短いが昔のままである。

<b>義賢名号塔</b> <span></span>
<span></span>
所在：玄門寺
種類：名号塔
建立年：天保4（1833）
石材：花崗岩
高さ：180cm
見学：可

浄土宗では「南無阿弥陀仏」の称名で誰でも浄土へ導かれるとする。本塔の六字名号は江戸末期の念仏行者「義賢」の揮毫による。元は門前にあったが、道路拡張のために境内に移された。

<b>「開運辨財天尊」の碑</b> <span></span>
<span></span>
所在：普願寺
種類：標石
建立年：文政7（1860）
石材：笏谷石
高さ：105cm
見学：可

山門前石段左手にある、「開運出世辨財天尊(一部欠損)」と彫られた石碑。本堂内にある「宇賀弁財天」は神奈川県に所在する江ノ島神社と縁起がある和菓子として創業された氷室徳頭は今も庶民に親しまれ、夏の風物詩となっている。

<b>道願屋彦兵衛の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：普願寺
種類：墓塔
建立年：寛政2（1790）
石材：赤戸室
高さ：116cm
見学：要許可

水室万円の創案者で享保年間(1716～1736)に川南町(現片町)大橋東側に和菓子屋を営む。夏季に徳川将軍家に献上した氷室の水と共に涼をとる和菓子として創業された氷室徳頭は今も庶民に親しまれ、夏の風物詩となっている。

<b>館屋弥兵衛の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：普願寺
種類：墓塔
建立年：寛政2（1790）
石材：笏谷石
高さ：126cm
見学：要許可

越前朝倉氏家臣の末裔で「若松館」の創始者。京都・薬師の製法を学び、河北郡若松村(現若松町)で館を作り加賀藩主に献上して藩の「御用館」となる。館屋として初めて店舗を卯辰観音町に構えて館を販売した。

<b>越野佐助の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：普願寺
種類：墓塔
建立年：安政2（1855）
石材：赤戸室
高さ：184cm
見学：要許可

1808～1885.能登屋佐助と名乗り卯辰西養寺前に住み、江戸から金箔を仕入れ販売していた。天保期(1830～1843)、加賀藩での金箔製造規制解除を求め、幕府から製造の公認を得るなど、金沢箔製造の礎を築いた。

<b>初代中村歌右衛門の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：真成寺
種類：供養碑
建立年：文政6（1823）
石材：赤戸室
高さ：404cm
見学：要許可

1714～1791.屋号加賀屋、本名大岡栄藏、医師の大岡俊安の子として生まれ、寛保2年(1742)中村歌之助から歌右衛門に改名。主に上方で活躍、悪役を演じて当代随一といわれる。石碑は文政6年に実子三代歌右衛門が追悼のために建立した。

<b>五十嵐道甫の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：真成寺
種類：供養碑
建立年：文政6（1823）
石材：凝灰岩
高さ：175cm
見学：要許可

?～1678.寛永年間頃、三代藩主利常に京都より招かれ、加賀時絵の基礎を築いた。以下代々五十嵐姓を名乗り、金沢にて時絵を生業とした。墓は文政6年、弟子筋の「宗平」により建立された。

<b>宮崎友禪宮の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：龍国寺
種類：墓塔
建立年：不明
石材：赤戸室
高さ：76cm
見学：可

元禄の頃、京都で活躍した扇絵師で、晩年は金沢で御用紺屋・太郎田屋四代目茂平と共に友禅染めを始める。石碑は友禅斎23回忌に建立されたといわれる。なお、生まれは金沢か京都とする2説があり、定かではない。

<b>題目塔</b> <span></span>
<span></span>
所在：妙国寺
種類：題目塔
建立年：寛政2（1789）
石材：赤戸室
高さ：220cm
見学：可

本堂前の階段上左側にあり、「南無妙法蓮華経」と3面に刻む。当寺は十三代藩主斉奏の生母小野木八百子(栄操院)の祈願所であったことから藩の庇護を受けた。

<b>大黒天寶前燈籠一对</b> <span></span>
<span></span>
所在：妙国寺
種類：墓塔
建立年：元治5（1864）
石材：凝灰岩
高さ：170cm
見学：要許可

当寺には日蓮作と伝えられる大黒天像が安置されており、別名大黒寺とも呼ばれる。大黒天に関連して小槌形の燈籠が奉納されたものと考えられる。

<b>宝生紫雪の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：全性寺
種類：墓塔
建立年：元治5（1864）
石材：凝灰岩
高さ：245cm
見学：要許可

十五代宝生大夫弥五郎友干。文久2年(1862)加賀藩の御手役者「波吉宮門」の世話で金沢へ移住。隠棲し「紫雪」と号す。翌年、浅野川河畔の天道寺(現浅野川稲荷神社)で亡くなる。将軍家の庇護の下、藩政期最後で最大の勲進能を興業。

<b>諸橋権之進の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：全性寺
種類：墓塔
建立年：不明
石材：凝灰岩
高さ：170cm
見学：要許可

初代は能登鳳至郡諸橋郷の出身。代々「権之進」を名乗り金春流能大夫を務める。子孫は三社三構(現芳斉2丁目)の正福寺の向いに能舞台のある屋敷に居住。十一代藩主治衛に召され、加賀藩宝生流能大夫として御手役者となる。

<b>波吉八音の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：全性寺
種類：墓塔
建立年：文久2（1862）
石材：凝灰岩
高さ：170cm
見学：要許可

波吉宮門(紅雪)の5男。波吉家は代々御手役者で、七代以降「宮門」を襲名。九代の宮門甚次郎(八音の父)は、宝生紫雪の弟子で「紅雪」と号し江戸の弘化勲進帳にも出演。万延元年(1860)4月、八音は金沢城二の丸の能舞台で能を演じた。

<b>理松院の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：妙壽寺
種類：墓塔
建立年：元和元（1615）など
石材：赤戸室
高さ：271cm
見学：要許可

豊臣秀吉の養女、初代藩主前田利家の娘豪姫と宇喜多秀家との間に生まれた子女理松院を葬ったもの。この墳墓に菌痛の時、箸を供えて祈願すると、平癒するといわれている。

<b>上木家の墓所</b> <span></span>
<span></span>
所在：蓮覚寺
種類：墓塔
建立年：元和元（1615）など
石材：赤戸室
高さ：206cm
見学：要許可

三代藩主・利常の生母「ちよ」の生家上木家の墓地。五輪塔と笠付墓碑がある。上木家は朝倉義景の時代に越前府中(現在の福井県武生市)に居住した。

<b>河野四郎右衛門の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：妙園寺
種類：墓塔
建立年：文久元（1861）
石材：笏谷石
高さ：118cm
見学：要許可

藩校明倫堂で書の講師を務めた河野四郎右衛門の墓、隣に室墓がある。墓碑の左側に功績を刻む。河野家は最初に浜松藩主大田資宗に仕え、その後四代藩主前田光高室(徳川家光養女)に召し出され、以後前田家に仕えた。

<b>大樋長左衛門の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：月心寺
種類：墓塔
建立年：天保10（1839）
石材：赤戸室
高さ：120cm
見学：要許可

五代長左衛門が、天保10年に四代目が亡くなったとき建立した。初代長左衛門(1630～1712)は裏千家仙叟宗室が金沢へ招かれた折、「茶碗師」として同道。河北郡大樋村(現在の大樋町)に窯を築く。

<b>仙叟宗室の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：月心寺
種類：墓塔
建立年：不明
石材：赤戸室
高さ：167cm
見学：要許可

1622～1697.裏千家四代目。38歳の時、五代藩主綱紀に京都より招かれ、150石扶持茶事奉行となり、金沢城下に茶道を広めた。元禄10年(1697)76歳で歿、墓所は京都大徳寺聚光院にあるが、後に月心寺に分骨された。

<b>題目塔</b> <span></span>
<span></span>
所在：本法寺
種類：題目塔
建立年：寛政3（1826）
石材：笏谷石
高さ：149cm
見学：可

山門前左側に建つ題目塔。碑正面に「南無妙法蓮華経」と刻まれている。当寺は三代藩主利常の祈禱所として建立された。

<b>徳本名号塔</b> <span></span>
<span></span>
所在：心蓮社
種類：名号塔
建立年：文政9（1826）
石材：赤・青戸室
高さ：197cm
見学：可

名号塔は山門手前の地藏堂に隣接。塔に刻まれた「徳本」とは紀伊国日高郡出身で、各地を巡り昼夜不断の念仏や苦行を行い、念仏聖と呼ばれる。本塔は徳本歿後に建立されたものである。塔直下に一石一字経が埋納されている。

<b>猷燈一对</b> <span></span>
<span></span>
所在：心蓮社
種類：燈籠
建立年：天保11（1840）
石材：赤戸室
高さ：82cm
見学：可

燈籠は本堂の前にあり。奉納者の中谷家は藩政時代に藩の胎方を務め、中谷次右衛門は「活き作り」の名人で中谷家中興の祖といわれている。

<b>手水鉢</b> <span></span>
<span></span>
所在：心蓮社
種類：手水鉢
建立年：元禄9（1718）
石材：赤戸室
高さ：54cm
見学：可

手水鉢は本堂正面にあり、平面形は長方形を呈す。正面に「元禄丙子 開禪院 除心」の文字を刻む。

<b>立花北枝の墓</b> <span></span>
<span></span>
所在：心蓮社
種類：墓塔
建立年：享保3（1718）
石材：凝灰岩
高さ：235cm
見学：可

?～1718.小松生れの刀匠、蕉門十哲の一人。元禄2年(1689)は芭蕉來杖の折に、入門し越前松岡まで同行。墓は幾度か修築、修復され正面に「趙北枝先生 享保三年五月十二日、左側に「施主藩月堂」を刻むが、施主の詳細は不明である。

本堂の左側にある燈籠。六代小川知安が建立。小川家は元近江国に住み、豊臣秀次・宇喜多秀家に仕え、慶長7年(1602)には二代藩主前田利長に仕えた。

表参道左側、国道沿いにある藩政末期の堂々とした燈籠。③とは大きさと建立時期は1年異なるが一对の物と見られる。「慶応元年 願攘厄災 富士大権現 道中安全」と刻む。

<b>願攘厄災燈籠</b> <span></span>
<span></span>
所在：小坂神社
種類：燈籠
建立年：慶応元（1865）
石材：赤戸室
高さ：464cm
見学：可

参道石階段を昇りきった玉垣内右側にある。当初は表参道入り口街道筋右側に設置されていたが、道路拡幅時に現在地に移設。「慶応二歳丙寅 願攘厄災 町内安全、春日御社前」と刻む。

<b>寄進燈籠一对</b> <span></span>
<span></span>
所在：小坂神社
種類：燈籠
建立年：元禄2（1689）